

発行日 ● 2016年3月25日
発行 ● 地理情報システム学会事務局

目次

地理情報システム学会25周年記念にむけて	1p
2016年度 GISA学会賞募集	1p
第24回研究発表大会セッション報告（追加）	1p
学会からのお知らせ	2p

委員会報告	2p
支部報告	3p
学会後援行事等のお知らせ	4p
事務局からのお知らせ	5p

卷頭言：地理情報システム学会 25周年記念にむけて

【地理情報システム学会会長 矢野 桂司】

地理情報システム(GIS)という言葉が社会的に広く浸透し、最近、GISには良い追い風が吹いています。

政府の成長戦略では、準天頂衛星等の宇宙インフラとGISを活用した新たな情報提供方策(G空間プラットフォームの民間企業等への全面的な開放等)の検討など、地理空間情報(G空間情報)とITの利活用を促進するための環境整備が検討されています。また、オープンデータ・ビッグデータの中心は地理空間情報で、現在、国・自治体でオープンデータの動きが活発化しています。とりわけ、国土地理院の「地理院地図」の進化は目覚ましく、その活用が産官学の様々な分野で浸透し始めています。また、教育分野においても、現在、中教審では高校地歴科の必修科目に関して、2022年から世界史と日本史を融合した歴史総合(仮)と地理総合(仮)の2つの必修化が検討されています。その地理総合(仮)では、GISをはじめとする地理的な技能や、世界のグローバル化、持続可能な社会づくりといった考え方を身に付けさせることができます。

1991年11月に設立した地理情報システム学会は、本年25周年を迎えます。会員の皆様全員でこの記念すべき節目をお祝いするとともに、こうした社会からGISに向けられた良い追い風を受け止めて、本学会がさらに発展することを期待したいと思います。

現在、理事会では、地理情報システム学会25周年記念組織委員会を設置し、25周年記念事業の具体化をすすめております。記念式典は第25回学術研究発表大会(立正大学品川キャンパス)の初日2016年10月15日(土)の午後に開催いたします。そして、12月に『地理情報システム学会25周年史(仮)』の出版を企画しております。10月の記念式典に多数ご参加いただくとともに、記念事業に向けての会員皆様のご協力を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

【2016年度 GISA学会賞募集】

【学会賞委員会委員長 寺木 彰浩】

2016年度地理情報システム学会賞の募集を行います。応募資格者および提出物の内容、受賞者選考・決定方法は以下のホームページでご確認ください。

<http://www.gisa-japan.org/awards/index.html>

自薦、他薦を問わず、たくさんのご応募をお待ちしております。選考結果は9月末日までに応募者各位にご連絡いたします。

また、受賞者は、本年10月15日(土)～16日(日)に立正大学品川キャンパスにて開催される第25回研究発表大会で表彰されます。

募集部門：

「研究奨励部門」(本年3月末日の時点で35歳以下の者)

「学術論文部門」

「ソフトウェア・データ部門」

「教育部門」

「著作部門」

応募期限：2016年7月15日(金)

提出先： 地理情報システム学会事務局

【第24回研究発表大会セッション報告（追加）】

■ Session C-5: 地域安全 (1) [司会：原田 豊]

このセッションでは、犯罪・災害・疾病などの脅威から地域の安全を守るために地理空間分析をどのように役立てるかを焦点として、3本の研究発表が行われ、それぞれフロアを交えた活発な議論が行われました。

島田他論文では、従来被害リスクの推計が困難であったひったくりなどの屋外を移動中に遭遇する犯罪について、携帯

電話の位置情報に基づく時間帯別の滞留人口データを用いることにより、犯行対象の時間的・空間的分布の変化を考慮した被害リスクの推計が試みられました。

小野川他論文では、津波や洪水などの災害リスクの認知が人々の居住地選択行動にどのように影響するかの検討を目的として、沿岸域の都市での市街化の観測地と、マルチエージェントモデルによるシミュレーションで得られた予測値とを比較する分析が試みられました。

鳥山論文では、専門医の地理的偏在の問題をデータで検討することをめざし、政府統計である医師・歯科医師・薬剤師調査のデータを用いて、専門医数・専門医比率などの地理的分布、およびそれらの経年変化の特徴に関する分析が試みられました。

いずれの発表も、市民生活の安全に直結する課題に、地理空間情報分析により新たな光をあてようとする意欲的なものであり、今後さらに検討を深めることにより、いっそう実践的意義の大きな研究へと発展することが期待されます。

【学会からのお知らせ】

■ 2016 年度一般社団法人地理情報システム学会定時社員総会のご案内

社員総会で議決権を有するのは代議員の方のみですが、他の正会員の方も出席し意見を述べていただくことができます。

日時：2016 年 5 月 28 日（土）15:00～16:30（予定）

場所：東京大学工学部 14 号館 2 階 144 番教室

東京都文京区本郷 7-3-1

■ 2016 年度学術研究発表大会のご案内 《予定》

2016 年度地理情報システム学会研究発表大会は、10 月 15 日（土）、16 日（日）の両日、立正大学品川キャンパスにて開催されます。

発表申し込みの手続き方法など詳細は、決まり次第、メールニュースや HP でご案内いたします。

（発表申込スケジュール：予定）

アブストラクト提出：7 月 1 日（金）～7 月 15 日（土）正午必着

講演論文集用原稿提出：決まり次第 web でご案内します

論文データ 7 月 1 日（金）～8 月中旬（正午必着）

論文（紙） 7 月 1 日（金）～8 月中旬（当日消印有効）

■ 2016 年日本地球惑星科学連合大会のご案内

会 期： 2016 年 5 月 22 日（日）～26 日（木）

会 場： 幕張メッセ（千葉県）

事前登録： 2016 年 5 月 10 日（火）17:00 まで

当学会関連セッションは以下のとおりです。

●5 月 22 日（日）午前：日本地図学会との共催

H-TT24 「地理情報システムと地図・空間表現」

●5 月 22 日（日）午後：日本地図学会との共催

H-TT09 「Geographic Information Systems and Cartography」

●5 月 23 日（月）午前：日本地理学会との共催

H-SC16 「人間環境と災害リスク」

大会について詳しくは…

http://www.jgpu.org/meeting_2016/

■ 2016 年度初等中等教育における GIS を活用した授業に係る優良事例表彰について（予告）

2016 年度も表記の表彰事業を予定しております。募集要項等の詳細は、近日中に web 等で発表予定です。現在、下記にて 2015 年度実績をご覧いただけます。

http://www.gisa-japan.org/news/detail_1310.html

なお、募集受付期間は 2016 年 7 月 1 日（金）～8 月 31 日（水）を予定しています。

【委員会報告】

■ GIS 資格認定協会

【大伴真吾】

2016 年 1 月 8 日（金）～10 日（日）にかけて、武蔵野美術大学新宿サテライトキャンパスにて「地理空間情報技術講座（GITEC）」を開催いたしました。太田守重氏（GISCA 実力向上担当幹事／国際航業株式会社）が講師となり、内容は、地理情報標準に基づく地理空間情報技術の入門で、GIS 学会等の受賞歴をもつ学習支援ソフト gittok を使用しながら、モデリング、データ取得、データ管理、空間解析、データ交換及び地理情報表現について、網羅的な学習が行われました。週末にかけての 3 日間 21 時間に及ぶ講座ではありましたが、21 名の方が修了しました。

2 月 12 日時点の認定状況は次の通りです。

GIS 上級技術者数 373 名

名譽 GIS 上級技術者数 19 名

GIS 教育認定プログラム件数 29 件



地理空間情報技術講座の様子

■ G 空間 EXPO2015 地理情報システム学会主催シンポジウムの報告 [企画委員：瀬戸寿一]

G 空間 EXPO では例年地理情報システム学会主催のシンポジウムが開催されているが、G 空間 EXPO 2015 では 11 月 26 日(木)の午後に、「Boot!! 研究者×スタートアップ! G 空間からイノベーションを加速せよ!」と題して約 40 名の参加者が来場し実施された。本シンポジウムは、研究とビジネスの融合によるイノベーションの創出をコンセプトとして、地理空間情報に関係ある若手経営者や若手研究者にターゲットを合わせ、学会構成員内外からこの分野を中心に活躍されている皆さんからご講演頂いた。本シンポジウムは、まず株式会社ナイトレイの石川氏から招待講演（40 分間）として大学研究室との技術・人材交流を基にした位置情報サービスの開発経緯を報告いただいた後、研究者側・スタートアップ企業側から合計 5 名の講演者（パネラー）から各 15 分の事例報告と、その後全講演者を交えた約 1 時間のパネルディスカッションが実施された。

事例報告は、まず研究者側から中西航氏（東京大学工学部社会基盤学科・助教）、齋藤仁氏（関東学院大学経済学部・講師）、有本昂平氏（首都大学システムデザイン学部インダストリアルアートコース・博士後期課程）から研究分野における地理空間情報の活用や研究上の課題について報告いただき、次にスタートアップ企業側から、北浦健伍氏（AGRIBUDDY LIMITED・CEO）と仙石裕明（株式会社マイクロベース・CEO）から、それぞれビジネスにおける話題提供を報告いただいた。

その後、1 時間程度のパネルディスカッションを行い活発な意見交換が行われた。コラボレーションに向けて学会として何が支援できるかを論点に議論が実施された。各パネラーから様々な意見が出され、例えば成功例・失敗例（困りごと）両方の事例を具体的に知る機会が必要であること、内容によってアウトプットが明確に出しにくいような研究分野もある状況下で、各企業のスタンスや急速な変化を遂げる社会情勢が的確に共有できる場があるとありがたい、などが提案され

た。

本シンポジウムは、学会としても多分野・他業種の方をお招きして行ったある種のスタートアップと位置づけられた。発表機会の多様性を考慮しながら、今後もこのような議論を定期的に行っていくことの重要性が共通認識として得られた。話題提供いただいた講演者の皆さま、会場から積極的に発言し本シンポジウムの開催に貢献いただいた来場者の皆さまに心から感謝します。

【支部報告】

■ 東北支部

[井上 亮]

東北支部研究交流会 開催報告

2012 年度より開催しております「東北支部研究交流会」を、本年度は 2015 年 12 月 10 日(木)に開催いたしました。地下鉄開業により交通の便が良くなつた東北大学青葉山キャンパスに会場を改めております。今回は、大学の研究者・学生の皆様より 8 件の話題提供をいただきました。テーマは、産業立地の地理的集積に関する分析手法の開発や既往手法の関係性の整理、震災復興の実態調査やまちづくり活動への GIS の利用、スマートフォンを用いた市民参加型調査システム、交通データの収集や解析・情報提供手法や地価分析による水害危険度認識評価など、地理空間情報を活用した多岐にわたる研究が紹介され、活発な議論が行われました。今後も東北地方の地理空間情報関連分野で活躍されている会員の皆様の交流を活性化していきたいと考えております。来年度も 12 月上旬に研究交流会の開催を検討しておりますので、ふるってご参加ください。



パネルディスカッションの様子



事例発表の様子

■ 関西支部 関西支部 報告

[田中 一成]

2015年10月26日(月)，薬業年金会館にて第16回の『関西地域 GIS 自治体意見交流会』を当学会関西支部の主催にて開催しました。第12回から既に5回目となります関西地区のGIS 関係団体が一堂に会して開催する“関西G空間フォーラム”の一環としての開催です。産・官・学の約200名の参加を得ての開催となりました。午前に行われた国土地理院近畿地方測量部が主催する第一部『測量技術講演会』に続いて、午後に第二部として本交流会、さらに第三部としてパネルディスカッションを実施しました。「地理空間情報と自治体 GIS の役割」をテーマに、地理情報システム学会関西支部事務局からの挨拶について、大阪府豊中市の岩下悠弥氏、滋賀県草津市の伊藤誠氏、さらに今回より民間の視点を加えた議論の必要性という観点から宍粟市の事例についてアジア航測株式会社の森田治氏、そして、滋賀県大津市の木下克己氏の合計4名の講師によって自治体 GIS 利用の具体的な事例にかんする講演が行われました。パネルディスカッションでは、昨年にひきつづき大阪府富田林市の浅野和仁氏がコーディネータとなり、第一部の講師から国土地理院参事官の村上宏史氏を迎えた合計5名のパネラーにより、自治体 GIS の役割と現状について、会場を交えて積極的な意見交換が行われました。

さて、本年度は上記のフォーラムに先立ち、同日午前9時30分より『地理空間情報活用推進に関する近畿地区産学官連携協議会』設立総会が開催されました。本協議会は、「地理空間情報に係る課題認識と情報を近畿地区における産学官の間の共有を図り、もって、地理空間情報の効果的な活用を推進することを目的」としています。当日は協議会設置要綱、活動方針が出席委員の賛成多数で承認され、協議会が正式に発足することとなりました。初代会長には、吉川地理情報システム学会関西支部長、副会長には北川大阪府測量設計業協会会长と福島兵庫県立大学教授が選任されました。



第16回『関西地域 GIS 自治体意見交流会』
合同シンポジウム・パネルディスカッション

関西支部が主催しております『GIS 上級技術者教育講座(GIS ブラッシュアップ・セミナー)』は、第15回を2015年10月3日(土)に「災害と情報と信頼」をテーマとして実施しました。OS Geo財団日本支部の塙谷栄里氏による講義と、事務局をコーディネータとした「最新 GIS 技術報告」では松村一保氏による技術報告会、そして好評となっていますディスカッションを32名の参加を得て開催しました。上級技術者を中心にして、さまざまな専門で活躍する専門家による活発な議論が行われました。

第16回の『GIS 上級技術者教育講座 (GIS ブラッシュアップ・セミナー)』は2016年2月6日(土)に「地理空間情報の普及と未来」をテーマとして36名の参加を得て実施しました。国土交通省国土地理院より伊藤裕之氏を講師として迎え、最新技術報告では一氏昭吉氏による報告、その後事務局や研究者からの事例紹介などをはさみながらディスカッションを行いました。地図の配信と利用方法、地図を利用した活動や研究とのつながりまで、幅広い話題を通して専門家や研究者、上級技術者をめざす学生等による議論が行われました。

学会後援行事等のお知らせ

■ 第12回 GIS コミュニティフォーラム

主催： ESRI ジャパンユーザ会
会期： 2016年5月26日(木)～27日(金)
会場： 東京ミッドタウン(東京都港区)
参加費： 無料・事前登録制(4月中旬登録開始予定)

詳しくは… <http://www.esrij.com/events/gcf/gcf2016/>



第16回『GIS 上級技術者教育講座
(GIS ブラッシュアップ・セミナー)』会場風景

事務局からのお知らせ

■2016年度年会費納入のお願い

今号は、年会費納入方法が口座振替で無い会員の方々に、2016年度分（2016年4月1日～2017年3月31日）年会費の郵便振込専用用紙を同封しております。納入期限は4月30日（土）ですので、お早めにお手続きください。

年会費は正会員10,000円、学生会員5,000円です。

期限に遅れますと、6月発行のニュースレター98号および『GIS-理論と応用 Vol. 24-No. 1』の送付が停止されるほか、ホームページの会員専用コンテンツの閲覧が出来なくなります。

なお、新年度から年会費の口座振替をご希望の方は、4月20日（水）までに、事務局に申込用紙をご請求ください。

■学生会員さんへ 学生証のコピー提出のお願い

4月以降も学生の方は、新年度に入つてから学生証のコピーを事務局までご提出ください。4月30日（土）必着、FAXまたはメール添付（jpgかpdfまたは写真）でお願いします。

提出が無い場合、2016年度は学生会員としてのお取り扱いができなくなります。学生会員の方には、別途、詳細を連絡済みですので、必ずご確認ください。

※コピーは「氏名」「発行者」「有効期限」が分かるよう取ってください。

※コピーの余白に「学部生」「修士課程」「博士課程」の別を明記してください。

※2015年度に提出された方も、再度ご提出ください。事務局で確認後、以前のものは既にシュレッダー裁断しています。

※学生証が4月中に発行されない場合は、その旨、事務局までご連絡ください。

■年会費口座振替ご利用の方へのお願い

2016年度分（2016年4月1日～2017年3月31日）年会費の口座引き落とし日は6月27日（月）です。口座残高のご確

認をお願いいたします。

年会費は正会員9,000円、学生会員4,000円です。

■変更届等について

就職、転職、所属や自宅の場所が変わった等々の場合、速やかに変更届をご提出ください。変更はオンラインで出来ます。

<https://www.gisa-japan.org/member/login.php>

■『GIS-理論と応用』への広告掲載について

会員の方は、学会誌『GIS-理論と応用』に製品・技術等の広告を掲載することができます。ご希望の方は、学会事務局までご連絡ください。

1. 広告料金 (A4・1頁単位) (消費税別)

後付	50,000円 (1回)
表紙3(裏表紙の裏)	50,000円 (1回)

毎号に掲載の場合は、15%引きです。

2. 原稿について

データでの提出(PDF原稿など26cm×18cm白黒印刷)

3. 提出締切

(6月末発行No. 1に掲載) 5月25日
(12月末発行No. 2に掲載) 11月25日

4. 発行部数 1,500部

■学会からの送付物へのチラシ封入について

会員の方は、「ニュースレター」「GIS-理論と応用」送付時に、書籍等広告のチラシを同封することができます。ご希望の方は、学会事務局までご連絡ください。

封入手数料 1部20円×会員数

チラシ送付先、送付期限等については、直接事務局までお問い合わせください。

2016年2月末現在の個人会員 1215名、 賛助会員 66社

賛助会員

(2口) NTTタウンページ㈱

(1口) アクリーク㈱、朝日航洋㈱、アジア航測㈱、いであ㈱、㈱インフォマティクス、ESRI ジャパン㈱、㈱NTTデータ数理システム、愛媛県土地家屋調査士会、応用技術㈱、大阪土地家屋調査士会、オートデスク㈱、㈱オオバ、㈱かんこう、関東甲信越東海GIS技術研究会、㈲岐阜県建設研究センター、九州GIS技術研究会、協同組合くびき野地理空間情報センター、近畿中部北陸GIS技術研究会、㈱こうそく、国際航業㈱、国土情報開発㈱、㈱古今書院、寿精版印刷㈱、GIS総合研究所いばらき、㈱GIS関西、ジェイアール西日本コンサルタント㈱、㈱JPS、㈱ジオテクノ関西、㈱ジオプラン、㈱昭文社、㈱ジンテック、㈱ゼンリン、㈱谷澤総合鑑定所、玉野総合コンサルタント㈱、中四国GIS技術研究会、テクノ富貴㈱、デジタル北海道研究会、東北GIS技術研究会、㈱ドーン、内外エンジニアリング㈱、長野県GIS協会、にいがたGIS協議会、日本エヌ・ユー・エス㈱、日本コンピュータシステム㈱、日本情報経済社会推進協会、日本スーパー・マップ㈱、㈲日本測量調査技術協会、日本土地家屋調査士会連合会、(財)日本地図センター、パシフィックコンサルタント㈱、㈱パスコ、東日本総合計画㈱、北海道GIS技術研究会、㈱マップクエスト、㈱松本コンサルタント、三井造船システム技研㈱、㈱三菱総合研究所、三菱電機㈱、(財)リモート・センシング技術センター

自治体会員：(1口) 大阪府高槻市役所、経済産業省特許庁、総務省統計局統計研修所、長野県環境保全研究所、福岡県直方市

学会分科会連絡先一覧

●自治体：浅野和仁（大阪府富田林市）

事務局：青木和人（あおき地理情報システム研究所 Tel 050-3580-8065）
E-mail : kazu013057@gmail.com

●ビジネス：高阪宏行（日本大学 Tel 03-3304-2051）
E-mail : kohsaka@chs.nihon-u.ac.jp

●防災GIS：畠山満則（京都大学防災研究所 Tel 0774-38-4333）
E-mail : hatayama@imdr.dpri.kyoto-u.ac.jp

●土地利用・地価GIS：碓井照子（奈良大学）
事務局：西端憲治（㈱セイコム Tel 0721-25-2728）
E-mail : totiriyo-sig@seicom.jp

●時空間GIS：吉川耕司（大阪産業大学 Tel 072-875-3001）

E-mail : yoshikaw@due.osaka-sandai.ac.jp

●地図・空間表現：若林芳樹（首都大学東京 Tel 042-677-2601）
E-mail : wakaba@tmu.ac.jp

●セキュリティSIG：内布茂充（行政書士 内布事務所 Tel 090-2284-4125）
E-mail : spcn87q9@royal.ocn.ne.jp

●FOSS4G分科会：Venkatesh Raghavan（大阪市立大学）
連絡先：嘉山陽一（朝日航洋㈱ TEL049-244-4032）
E-mail : youichi-kayama@aeroasahi.co.jp

●若手会員分科会：山本佳世子（電気通信大学 Tel 042-443-5728）
E-mail : k-yamamoto@is.uec.ac.jp

地方支部の連絡先一覧

<北海道支部>

支部長：北海道大学 橋本雄一
Tel : 011-706-4019, E-mail : you@let.hokudai.ac.jp

<東北支部>

支部長：東北大學 井上亮
Tel : 022-795-7478, E-mail : rinoue@plan.civil.tohoku.ac.jp

<北陸支部>

支部長：新潟大学 牧野秀夫
Tel : 025-262-6749, E-mail : makino@ie.niigata-u.ac.jp

<中部支部>

支部長：中部大学 福井弘道
連絡先：杉田暁（中部大学）
Tel : 0568-51-9894（内線 5714), E-mail : satoru@isc.chubu.ac.jp

<関西支部>

支部長：大阪工業大学 吉川眞
連絡先：田中一成（大阪工業大学）
Tel : 06-6954-4293, E-mail : gisa@civil.oit.ac.jp

<中国支部>

支部長：広島修道大学 川瀬正樹
Tel : 082-830-1210, E-mail : kawase@shudo-u.ac.jp

<四国支部>

支部長：徳島大学 塚本章宏
Tel : 088-656-7616, E-mail : tsukamoto.akihiro@tokushima-u.ac.jp

<九州支部>

支部長：九州大学 三谷泰浩
Tel : 092-802-3399, E-mail : gisaku@doc.kyushu-u.ac.jp

<沖縄支部>

支部長：琉球大学 町田宗博
E-mail : machida@ll.u-ryukyu.ac.jp
連絡先：澤嶽直彦（特定非営利活動法人沖縄地理情報システム協議会）
Tel : 098-863-7528, E-mail : takushi@okicom.co.jp

■ 編集後記 ■

現在、防災 GIS に関する業務に携わっています。昨年9月に発生した関東・東北豪雨の際にも指摘されたように、防災には発生後の応急対応と事前の備えの双方が重要です。私の属する組織では、防災アプリのコンテストを実施していますが、災害リスクを住民などに効率的・効果的に伝達するには、国や自治体などが収集しているインフラ被害情報などを流通させる技術の開発とともに、技術を実装した仕組みづくりも必要となり、地理空間情報処理・活用にますます期待が高まっています。地理空間情報研究の末端に連なるものとして、少しでも研究成果を社会に還元する手伝いができると考えています。(長谷川 裕之(国土地理院))

地理情報システム学会ニュースレター

第97号 ●発行日 2016年3月25日

■ 発行

一般社団法人 地理情報システム学会

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル 4階

TEL/FAX: 03-5689-7955 E-mail: office@gisa-japan.org

URL: <http://www.gisa-japan.org/>

■ 弥生雑記 ■

この季節、桜餅で悩んでいる。餅を包む桜の葉が問題なのだ。食べるか否かは好みだから、ここでどうこうというのではない。ただ、叔父が和菓子屋を継いでいることもあり、我が家では剥がして食べる習慣だ。椿餅や柏餅同様、餅に移った香りを楽しむのである。私が馴染んでいる桜餅は所謂「長命寺」タイプで、餅から葉は簡単に剥がれる。しかし「道明寺」タイプのものは…葉を剥がそうとするとまず失敗して無残な姿になる…どうしようもなくなって葉ごと口に入れる。何故か叔父に対して申し訳ない気持ちでいっぱいになってしまふ。(叔父は道明寺タイプは作らないのだが)

安物の量産品を買う私がいけないのか、関西出身ながら綺麗に葉を剥ぐコツを知らない家人が悪いのか、そもそも道明寺は葉も一緒に食べるもののようだろか。ネット上でも喧々囂々、季節に關西の店を訪れると瞬時に解決できる気もするが、これまで機会がなく懊惱は続く。誰か、明快な答えをお持ちではないだろうか。ああ、心おきなく道明寺を堪能したい。(学会事務局)